

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

消化器病学の向上発展を図り、人類の福祉に寄与することを目的とし、本学会では学会の発展に貢献した研究を表彰する「学術賞」、若手・中堅の研究者に対する「奨励賞」、臨床研究に特化した助成事業である「臨床研究助成」を運営。また本学会機関誌(和文・英文・英文臨床)への優秀投稿論文に対する顕彰制度、若手研究者のための留学支援制度を設置し本邦に於ける消化器とその疾患に関する研究を活性化させる活動を支援、推進してきた。

特に「学術賞」は、本領域に於けるトップレベルの研究に対するものであり、基礎・臨床双方の分野で水準向上に貢献してきている。

2020 年度に創設された「女性研究者賞」は本領域での女性活躍促進の起爆剤として、中堅クラスの女性研究者の研究活動を支援しているが、応募者が多数に上り女性会員のモチベーション向上に役立っているとの意見が出たことから、当初 5 年間限定としていた賞の設定期間を 10 年に延長。また「臨床研究助成」は本年より応募条件等をより実情に即したものに变更し、意欲ある研究者が応募しやすいよう工夫している。

また本学会英文機関誌「Journal of Gastroenterology」は IF6.3(2022)と日本医学会分科会機関誌としては最高レベルの数値を得ており、広く本領域の発展に貢献している。

b. 当該領域における国際的な役割

本領域に於ける国際的な役割を果たし、その連携を深めるために本学会では学術集会に於いて、AGA(米国消化器病学会)、UEG(欧州消化器病学会)やアジア関連学会との合同プログラムを開催し、相互の知見の交換を図っている。

2023 年に韓国消化器病学会との覚書を締結。互いに学術集会に研究者を派遣することとした。また、従来からアジアオセアニア地域の研究者研修の場として Research Fellowship Program に基づき毎年 3 名程度の研修生を招聘し、約 3~5 か月の臨床研修の場を提供しているのに加え、本年より「若手外国人医師奨励賞」を新設し、アジアオセアニア地域から既に本邦研究機関に留学している研修生の業績を評価し、研究助成金を支給することとしている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

広く本学会の成果を社会に還元すべく本学会では各地域にて市民公開講座を開催。2023 年度は 31 回/3,200 名強の一般市民に参加頂き、消化器疾患に関する講座を開催。最近 YouTube での発信も一部実施している。市民向け健康情報誌「消化器のひろば」の頒布(13 万部強)、Web 公開を行っている。

消化性潰瘍、過敏性腸症候群、大腸ポリープ、炎症性腸疾患、肝硬変、NAFLD/NASH、胃食道逆流症、機能的ディスペプシア、胆石症、慢性膵炎の計 10 疾患の診療ガイドラインを発行しており、今後発行を予定している慢性便秘も加えると 11 疾患となる予定である。既に発行して

いる 10 疾患については分かりやすく纏めた「患者さんご家族のためのガイド」を本学会 Web で掲載しており一般の方々へ正しい知識を広める方策を行っている。

d. 学会運営上留意している点

学術研究活動の推進と並行して社会より医学界に要請される倫理・利益相反への対応を重視しており、毎年の倫理指針・利益相反指針の見直し、運用ルールの強化を通じ、正しい研究活動の推進を学会全体で図っている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

日本消化器関連学会機構(JDDW)を日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器外科学会とともに設立し、年 1 回の共同での学術集会開催の他、教育研修、倫理等の分野での協働を実施。学会の枠組みを超えた研究活動、知見の交換を活発に行っている。

併せて学会の枠を超えた取り組みとして、本学会の附置研究会の一つとして日本小児外科学会等と合同で「成人移行支援のあり方研究会」を本年発足させ、今年度本学会総会で第 1 回研究会を実施した。